

梅花 (王安石)

牆角 數枝の 梅

牆角數枝梅 凌寒濁自開
遙知不是雪 爲有暗香來

解説 垣根の角にある梅の枝を見て、寒さを凌いで美しく咲いている梅の花の気高い姿を詠ったもの。

寒を 凌いで 独り 自から 開く

語釈 ※牆＝垣根。※凌寒＝寒さをものともせず。※暗香＝目に見えない香り。どこからともなくただよってくる香り。梅の花の香り。をさす。

遙かに 知る 是れ 雪 ならざるを

暗香の 来る 有るが 為なり

通釈 垣根のすみのところに、梅の枝が数本出ている。その梅は寒さをものともせず、他の花に先がけて、花を咲かせている。遠くから見ると雪のようだが、雪でないことがわかる。それは、どこからともなく花の香りがただよってくるから。